

学生日本一を決めるインカレロング大会。男女選手権クラスが不成立となった

2010年11月21日 奈良県宇陀市
2010年度日本学生オリエンテーリング
選手権大会ロングディスタンス競技部門

男女選手権クラス不成立

日本学連と大阪 OLC の協力で開催にこぎ着けたインカレロング 2010・大阪 OLC35 周年記念オリエンテーリング大会は小春日和の中で幕を開けた。

この大会に向けて練習を積んできた学生たちやオリエンテーリング愛好家がこの秋一番のビッグイベントを楽しんでいた。順々にタイムスタートしてゆく参加者のスタート順が終盤にさしかかった 12:03 以降に参加者がスタートできない状態になった。影響を受けたクラスは競技不成立となった。

競技続行不能になった理由は、地元の方がスタート近くに現れ、競技の中止を求めたことによる。

不成立クラス

学生男子選手権
学生女子選手権
大阪 OLC 大会 M21E クラス
大阪 OLC 大会 M21A クラス

成立クラス

上記クラスを除くすべて

大会開催の難しさ

大会実行委員会は事前に開催地区での渉外活動を行っていた。テレイン内部にある立入制限地域についても事前調査しており、コースはこうした範囲を避けて設定し、地図にもその旨が表示した。

こうした配慮を踏まえて、大会当日までは十分な渉外活動によりテレインが利用できる状態になっていると判断していた。

だが大会当日には競技の中止が求められる事態となった。

土地をお借りして競技を行うオリエンテーリングでは常にあり得る状況である。それはインカレであれ、公認大会であれ変わらない。事前の渉外活動により突然の競技中止リスクを可能な限り下げる努力はなされるが、中止リスクをゼロにすることは不可能であると感じる。



大会終了後、サークルごとに円陣を組んで反省会を行う学生たち。インカレの風物詩だ。紅葉が眩しい小春日和だった。

宙に浮いた優勝カップ

インカレロング大会として学生一般クラスは競技が成立したが、主役の男女選手権クラスで優勝者が決まらない、学生日本一が決まらないという事態になってしまった。インカレ 33 年の歴史において初めてである。

この事態を受けて日本学連では今後の対応を話し合うことになっている。

インカレを考え直す機会

今回のインカレ選手権クラス不成立という結果を、衝撃をもって受け止めた人も多だろう。

「こんなときに自分に何ができるのだろうか。」

多くの学生や学生 OB に中に真剣に考えた人も多。図らずも今回の事態がインカレを考え直すよい機会になってしまっている。インカレとは誰が、誰のために開催する競技会なのか。

実行委員会の思い

せっかくの小春日和であったが、参加者や実行委員会委員会メンバーの気持ちは晴れなかった。この大会の成功を目指して努力してくれた実行委員会メンバーの心情を思うと、私もつらい気持ちになる。だがこの事実と実行委員会の努力をこのマガジンに書かないわけにはいかないだろう。

インカレロング 2010 は大阪 OLC 大会がコラボしてくれたから開催にこぎ着けることができた。ロング競技が秋インカレとして行われるようになって今回で 7 回目。念願の関西地区での開催だった。学連理事としてインカレロング 2010 を、大阪 OLC をはじめとする実

行委員会と実施できたことは学連にとっても、私にとっても大きな財産となった。男女選手権クラスの不成立の事実とは関係なく、感謝の思いは強い。

新人活躍の場

選手権クラスは不成立になったが、学生一般クラスの競技は成立し、それぞれに思いをぶつけたレースになったようだ。

特に秋インカレは新人たちの全国レースデビュー戦としての意味合いもある。今年も多くの人たちが表彰台に立ち盛大な祝福を受けた。今年も新入生勧誘が成功したクラブが多く、明日を支える新人学生が増加傾向になったことも嬉しい材料だ。

クラス自体は不成立になった男女選手権であるが、新人だけは全員スタート閉鎖の影響を受けずに競技を行うことができた。このため、選手権クラス新人特別表彰だけは行われた。

(木村佳司)



競技の成立した大阪 OLC 大会 W21E クラス優勝者の皆川美紀子、学生新人特別賞の高橋美誉(岩手大学)、平野弘幸(東北大学)スポンサーからの副賞を手にする。